

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工礦業振興費

事業名 【新】スペースビジネス推進事業

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 航空宇宙産業課 産業振興係 電話番号：058-272-1111 (内3762)

E-mail : c11354@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 補正要求額 31,402 千円 (現計予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	31,402	13,804	0	0	0	0	0	0	17,598
決定額	31,402	13,804	0	0	0	0	0	0	17,598

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

宇宙産業は、2040年には世界の市場規模が150兆円規模に成長すると見込まれている。我が国において、令和5年6月に「宇宙基本計画」が閣議決定され、宇宙産業を国の成長産業とする方針が示され、民間企業や大学による宇宙分野の技術開発を後押しする総額1兆円規模の「宇宙戦略基金」が設立された。

宇宙分野は、産業のすそ野が広く、今後、県内の航空機関連産業をはじめ、あらゆる産業の宇宙分野への参入が期待できる。そのため、令和7年8月に産学官を挙げて、宇宙産業の振興と宇宙人材の育成を推進するため、「GIFUスペースビジネス協議会」を設立。県内で実施する宇宙産業振興・人材育成の取組の具体的な方策について、産学官で構成する会員からの提言をもとに、検討・実施していく。

(2) 事業内容

【1】産学官連携推進事業

- ①GIFUスペースビジネス協議会の運営
- ②GIFUスペースビジネス協議会会員交流会の実施
- ③会員企業のデータベース構築、マッチング支援
- ④新たな宇宙ビジネスを生み出すことを目的に、複数の企業が参加するワーキンググループの活動支援

【2】産業振興事業

- ①国内外の宇宙業界の最新動向を提供する勉強会（セミナー）及び商談会の開催
- ②県内企業と宇宙関連企業マッチング
- ③国内外で開催される宇宙産業に関する展示会への出展支援（小間提供）

【3】人材育成事業

- ①岐阜大学が高度宇宙技術者（「造り手」「使い手」）の育成カリキュラムを構築するため、県内企業と連携して実施する「衛星データ利活用講座」、「衛星試作講座」「宇宙工学講座」等の各種研修の実施
- ②「宇宙工学講座」参加者を対象としたJAXA等見学ツアーの実施

（3）県負担・補助率の考え方

県が成長産業分野として位置付け、産学官が連携した取組であり、県の負担は妥当である。

（4）類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	21,880	国内外の販路拡大に向けた商談サポート等の委託
報償費	253	大学教授等専門家への謝金（プロポーザル等）
旅費	1,064	国内外の展示会出展支援に係る職員旅費
補助金	8,000	岐阜大学への補助金
その他	205	使用料、会議費
合計	31,402	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
3 地域にあふれる魅力と活力づくり
- （2）次世代を見据えた産業の振興
①産業を支える人材の育成・確保
③県内産業の活力の強化と新事業展開の推進（航空宇宙分野）
- ・岐阜県経済・雇用再生戦略
1 新たな産業活力創出プロジェクト
産業構造の変化を捉えた次世代産業創出支援
3 人材確保・雇用対策プロジェクト
次世代産業の創出やDXの推進等を担う人材の育成・確保

（2）国・他県の状況

福井県：産学官連携により県民衛星打上げプロジェクトを実施

茨城県：「いばらき宇宙ビジネス創造拠点プロジェクト」を通じて、県内企業の宇宙産業参入を支援。補助金制度や展示会、コンソーシアム設立などにより、宇宙ベンチャーの創出と産業振興を推進

（3）後年度の財政負担

宇宙分野は、国の宇宙戦略基金のように10年単位の長期的な取組が必要であり、当該事業の効果は、単年度で現れるものではないため、今後も継続的に実施及び支援する必要がある。

（4）事業主体及びその妥当性

県が成長産業分野として位置付け、産学官が連携した取組であり、県が主導して牽引しつつ、産学官で構成する「GIFUスペースビジネス協議会」を運営して実施する必要がある。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 - ・宇宙関連機器（主にロケット・人工衛星）の部材提供を行う企業を創出する。
 - ・宇宙を利用した新ビジネスを創出する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R7)	R8年度 目標	R9年度 目標	R10年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①宇宙関連企業とのマッチング件数（企業数・累計）	6	8	10	12	12	50%
②新たに宇宙ビジネスに取組むワーキンググループ数（グループ数・累計）	0	2	4	6	6	0%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

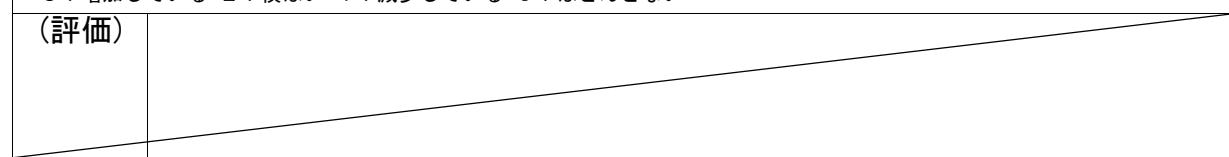
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
	指標② 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
	指標② 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
	指標② 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない



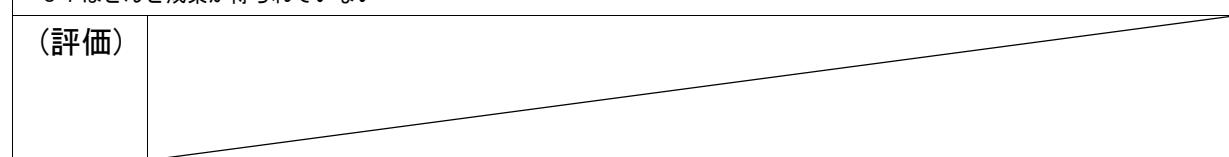
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり

2：期待どおりの成果あり

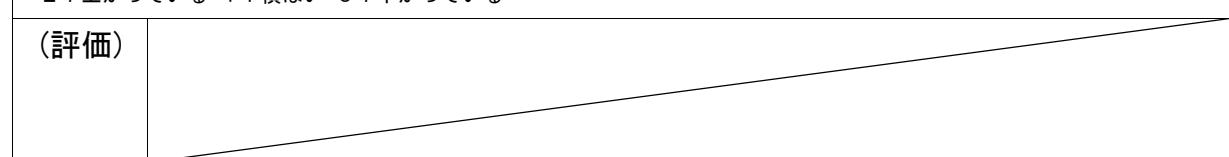
1：期待どおりの成果が得られていない

0：ほとんど成果が得られていない



・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている



(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

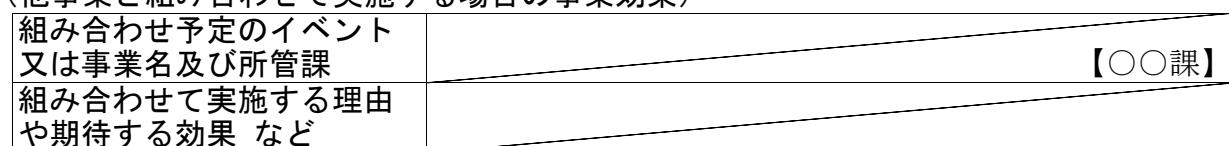
長期的には市場が拡大することが見込まれているものの、短期的には利益に結び付かないこと、人手不足により宇宙産業への参入に消極的な企業が少なくない。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

令和7年度に「GIFUスペースビジネス協議会」を設立し、県内で実施する宇宙産業振興・人材育成の取組の具体的な方策について、産学官で構成する会員からの提言とともに、検討・実施していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)



県単独補助金事業評価調書

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	スペースビジネス推進事業費補助金
補助事業者（団体）	岐阜大学 (理由) 平成28年度から「宇宙工学講座」をはじめとする宇宙分野に関する人材育成事業を、県内高校・高専と連携して実施するノウハウ・実績を有しているため。
補助事業の概要	(目的) 高度宇宙技術者を育成するため、宇宙分野に関心を持つ人材の確保及び実践的なプログラムの受講によるスキルアップを図る。 (内容) 「宇宙工学講座」等の既存メニューの他、県内企業・高校・高専と連携した実践的な人工衛星の製造・運用のスキルを身につける育成メニューを実施。
補助率・補助単価等	定額 (内容) セミナー、実践的プログラム推進費 (理由) 人件費の大半を除く実費相当分を県が負担
補助効果	宇宙に関する興味・関心の喚起、基礎知識・基礎技術を習得、企業とのコミュニケーションを通じた社会的スキルの習得、県内企業への就職まで一環した体制構築を図る。
終期の設定	終期：令和10年度 (理由) 人工衛星の製造・運用のスキルを身につけるための人材育成メニューの試行的実施期間を経て、一般的なカリキュラムとして定着を目指すため。

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか 人工衛星の製造・運用のスキルを身に付けるための人材育成体系を整備し、県内企業の宇宙関連分野への進出・受注獲得に資する優れた人材を一定数育成する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R7)	R8年度 目標	R9年度 目標	R10年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①宇宙工学講座 受講者数 (累計)	654	754	854	954	954	69%

補助金交付実績 (単位：千円)	
--------------------	--

(これまでの取組内容と成果)

指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %	
指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %	
指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %	

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価)	
------	--

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり（単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり）

2：期待どおりの成果あり（単年度目標100%達成）

1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標50～100%）

0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標50%未満）

(評価)	
------	--

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)	
------	--

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

岐阜大学が実施する宇宙工学講座を受講し、宇宙に興味を持った県内高校生の県内定着率（進学・就職）が低い。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

宇宙分野については長期的な取組みが必要であり、国内の宇宙産業も活況であるため、業界動向やニーズ等を踏まえて県内の宇宙人材育成の取組みを進める。